

# その8 杉

(平成5年11月1日号—第166号)



12 杉2丁目から1丁目を望む

枚方市域の東の先端、氷室地域の入口に今回紹介する杉地区があります。その昔、宮廷に献上する氷を貯蔵する氷室があった杉の集落<sup>\*1</sup>は、現在の国道307号沿いのわずかな土地に、家々がひっそりと建っているだけでしたが、穂谷川対岸の丘陵地(杉山手地区)に大きな住宅地ができるなど、市街化の波が押し寄せ、人口も数倍に膨らみました。しかし、この地区にはまだ自然がたくさん残っています。住宅街の周りには田園風景が開け山々は緑に包まれています。

ところで、杉地区を代表するものに、スモモがあります。スモモは、明治時代から杉で栽培され、昭和41年にはスモモ団地が誕生しました。スモモが純白の花をつける4月には、野鳥やミツバチたちが飛び交います。

さて、杉の地名はどこからついたのか。国道307号を尊延寺に向かって行くと杉地区のはずれに石の柵に囲まれた杉の木があります。地元の人「大杉さん」と呼んで、氏神である若宮八幡宮にお参りする前に「大杉さん」にもお参りしていたそうです。昔はさぞ大きな杉の木があったのですが、現在ではその何代目かに当たる若い木が、杉の人々の生活を見守っています。



13 大杉祠(杉2丁目)

<sup>\*1</sup> 『日本後紀』には河内国に3カ所としか記載されていない。氷室の場所として穂谷・杉・芝(尊延寺)などの地名が現れる『氷室郷穂谷氷室遺址権輿紀』は、偽文書であるという説がある。